

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102543		
法人名	有限会社 美大		
事業所名	グループホーム年輪		
所在地	宮崎市大字恒久5983番地		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanitrue&jigyosyoCd=4570102543-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のホームは、田圃が広がる自然豊かな住宅地にあり、車の往來の殆どない農道で、心行くまで草花やトンボ、チョウと親しむことができます。
この1年では、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科が新たにオープンし、更に眼科が現在建築中であり、既存の精神科、心療内科、内科、放射線科の病院、及び在支診の外科・内科医院と何れもホームから徒歩3分の位置にあります。また、ホームには24時間対応が可能な正看護師、薬剤師がいますので、高齢者の生活環境は恵まれています。
2カ月毎の家族会・運営推進会議には、3カ所の保育所と知的障害者通所施設を運営する、社会福祉法人の理事長に出席していただき、豊富な福祉経験に立脚したアドバイスやご指導をいただいています。保育所への招待や、園児の訪問などの交流も楽しみです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階がグループホーム、2階が代表者の住居となっており、代表者が永年にわたり地域とのつながりを培ってきているため、ホームは地域の一員として自然体で定着している。病院の祭りの見学に行ったり、保育園の卒園式に招かれるなどの交流も活発である。近隣地域には医療機関も多く、交通の便も良く、田畑などの自然環境にも恵まれている。自家菜園の無農薬野菜が食卓に上り、天気の良い日の散歩を通じ季節の移ろいを感じることもできる。職員と利用者、家族は大きな家族という感覚で率直に意見を出し合い、笑顔が絶えず、利用者同士が仲良く生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊厳を守り、地域に根差した明るく楽しいホーム」の理念を掲示し、各自始業前に読み上げ、日々初心に立ち返り、理念の精神を反芻している。	理念は「私たちの思い」という形の3項目に集約し、朝、昼、夕と1日3回は黙読し、理念に沿った実践ができていないか振り返りにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が気軽に立ち寄れるように、入口は日中オープンにしている。散歩等で日常的に顔を合わす機会が多く、自然に挨拶を交わす関係を築いている。市民一斉清掃や地域のお祭り等にも入居者様、職員共に積極的に参加している。	代表者が永年住んでいることもあり、地域とのつながりが密である。一斉清掃や地域の祭りへの参加、保育園等との交流がなされ、また、回覧板を利用者と職員が一緒に回したりするなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談をいつでも受けられる旨の案内を、こども110番・AED設置の案内と共にホームの表に掲げている。ホーム長が自治会の班長をしており、地域との交流の中で相談を受けることも多い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日常の状況、ホームの行事内容、自己・外部評価の結果を報告し、家族や委員の意見をいただいている。会議における意見や苦情は「教科書」です、と冒頭お願いをし、遠慮ない発言を促し、意見等を尊重してサービスに反映している。	運営推進会議のメンバーが参加しやすいよう、日曜日に開催している。代表者や管理者は率直な意見が出せるよう謙虚であること、出された意見を尊重することを心掛けている。室温の調節や駐車場の増設などについての意見や提言がなされ、改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険課、社会福祉課や地域包括支援センター等と円滑な連携が図れるように、日頃から訪問をし、各担当者とコンタクトをとっている。分からない点はすぐに確認し、アドバイスを頂いている。	相談ごとが発生した時は気軽に出向いて相談をしたり、助言を得ている。研修等も交代で参加するなど、行政との連携・協力を努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて何度も研修を行っており、フィジカルロック・ドラッグロック・スピーチロックが与えるダメージを理解し、どんな事があっても決して行わないと決め、拘束の事例はない。また、玄関や門扉は7:00～19:00は施錠していない。	職員は拘束について定期的に研修を重ね、拘束の弊害についても十分理解している。万が一疑わしい言動があった場合は、気づいた職員がその場で注意し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で高齢者虐待防止法等について皆で学び、ホームで虐待防止に全員で取り組んでいる。家族会でも虐待について話し合いを行っている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム年輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や家族会において、後見制度や、市社協が取扱う日常生活自立支援事業の内容を説明し、対応できる体制は整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には箇条毎に説明し、熟読いただいた上で質問を受け、不安・疑問等のないようにしている。改定は家族会に諮り同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が目につきやすい場所に、意見や要望を寄せる為の意見箱を置くと共に、民生委員、区長等の電話番号を掲示している。家族会、運営推進会議でも発言を促し、意見は運営に活かしている。意見要望は個人的なものはケアプランに生かし、全体的なものは職員会議等で全職員に知らせている。	利用者や家族から率直に意見が出されている。手すりの設置やソファの増設、ベッドマットの交換等の要望があり、すぐに反映させ改善している。意見箱に意見が投書されることはないが、家族の来訪時や家族会などで意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には改善への提案を常時募り、良いアイデアは積極的に採用し、表彰することもある。職員の意見には真摯に耳を傾け、職員のモチベーションを高め、結果的にホームの進化を図っていく。	月に1回の職員会議が、意見を出しやすい雰囲気となるよう心掛けている。駐車場増設の要望や家庭環境に配慮した勤務体制などを全員が理解し、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者はキャリアパスを奨励し、資格取得後は手当で処遇している。労働時間等、職員の希望をできる限り受け入れ、経営者と職員の話す機会を多くもち、働きやすい環境ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経歴や実績に応じて、各種研修に積極的に参加させている。経験豊かな管理者によるOJTも機会をとらえて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療機関系列のグループホームと毎月相互訪問をしている。管理者同士のつながりも深く、長所は積極的に採り入れ、意見交換を通じサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心の不安を解消するため、他の入居者様との良好な関係の構築に意を用い、生活のリズムを大切に接している。嗜好品等の本人の要望を聞きとり、安心して生活できるようサポートしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に重要事項説明書に基づき、詳細に協議している。家族の不安や要望には懇切、丁寧に対応し、家族との良好な関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の個々の身体や精神の状況を把握し、本人、家族と協議の上、通院や訪問マッサージ等他のサービス利用を含めた介護計画を立て、適宜見直しを行いサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を見極め、能力の活用を図り、生きがいや達成感をもっていただくようサポートしている。職員や入居者様間の、仲間意識の醸成にも努め、助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も支援者の1人と考え、情報を共有し、一緒に入居者様を支えている。また、ご家族のご意見を傾聴し、良い関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昼夜を問わず面会は自由である。家族や友人が帰られる際は、次回も気持ち良く訪問していただけるよう、心配りをしている。行きたい所や、会いたい人の希望は家族に伝え、家族が出来ない時は職員で対応している。	利用者の要望を家族の協力も得ながら、万全の準備を整え、望みがかなうようにしている。利用者と一緒に外出や外泊の準備をすることで、本人はもとより、相手も困らないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	疑似家族としての、入居者様間の良好な関係の構築に努めている。相性を考慮しながらも、孤立されない様細心の注意を払い、ホーム内の融和を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際には、本人の状況、習慣、好きな物等を詳しく伝え、移り住む事のダメージを少なくするよう努めている。また、退居された方の家族とも交流し、面会を希望されたら伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各自の個性、価値感、生活リズムを把握し、本人の思いを最優先に叶えるようにしている。意思表示ができない時、あるいはその様な人に関しては表情等を読み取り、サポートしている。	意思表示が困難な利用者の思いや意向の把握には、表情や仕草から推し量っている。利用者同士が声を掛け合い、手助けをするなど和やかな雰囲気でも過ごしているため、その時に見せる表情なども参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、病院等の入所前の施設から詳細な情報を収集し、習慣や価値観、健康状態等を把握し、職員全員で情報を共有し、介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は様々な視点にたち、入居者様の好む1日の流れ接遇を、チームとして考え把握に努めている。更に、喪失感を与えないよう配慮し、出来る事や潜在能力を探り、介助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様毎に担当を決め、職員会議等において、各々のカンファレンスを行い、ご本人や、ご家族の意見を汲んだケアプランを作成している。	担当制であるが、介護計画は全員でカンファレンスを行い、作成している。日々の記録は、創意・工夫をした様式で見直しをし、共有化している。全職員がプランを理解し、サービスの提供に生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや、アイデアを個別日誌に書く際は文頭に目印を付し、職員が解りやすいようにし、個別カンファレンスで意見を出し合っ、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経験豊富な看護師やケアマネ、介護スタッフが徹底した検討を行い、良いと思った事はマニュアルに捉われず実施している。定期的に音楽療法も行っている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム年輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺は田圃が広がり、緑と触れあう散歩ができる。保育園との交流の機会を持ち、また、ホームが地域の水かけ地蔵祭りの休憩所にもなっており、子供と触れ合う機会を創出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った、かかりつけ医に受診している。定期的あるいは急変時の往診も在宅支援診療所が24時間対応可能であり、連携は密にとれている。	利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医を受診できるように支援している。家族の支援が困難な時は、職員による同行受診を行っている。歯科に関しては往診診療も可能であり、口腔ケアの指導も併せて受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老人病棟の経験がある職場内看護師が、入居者様の健康状態を細かく観察し、介護職員にも適宜OJTを実施している。体調の変化に対応した24時間体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を入院当日に医療機関に渡し、入居者様のストレスや負担が軽減できる様努めている。入院中は、何度もお見舞いに伺い、ホームでできるリハビリ等を医療関係者へ伝え、早期退院できるよう積極的に支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明を行い、理解してもらっている。重度化、終末期になった場合には、医師との連携を密にし、ご家族やご本人の希望にそった生活ができる様に全職員で支援していく。	看取り指針を作成し、入居時に家族及び利用者に説明をしている。重度化や終末期を迎えた場合、家族や本人の意見・意思を尊重し、かかりつけ医や訪問看護ステーションなどの関係機関と連携を図り支援している。看取りについて職員のフォローアップ体制も整えており、意識の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習も全職員が受講し、職場内看護師のアドバイスもあり、職員は実践力をつけている。AEDを設置し、初動体制も築いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火災や地震等の災害を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議にて近隣の方へ呼びかけ、協力体制が築けている。また、災害時に備え飲料水や食料の備蓄をしている。	2～3か月に1度、火災を主に、日中や夜間を想定して通報体制の確認や避難の実地訓練を行っている。最近では地震も想定し、防空頭巾の着用や窓を開ける訓練も取り入れている。	運営推進会議でも議論し、近隣住民への協力要請はしているが、訓練に際し住民の参加はまだ実現していない。避難訓練に近隣住民の参加を得よう更に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや態度には十分に気をつかい、尊厳やプライドを傷付けないよう努めている。特に排泄時は羞恥心に配慮し対応している。	職員の言動には最も気をつけている。申し送り時の呼称も一部A男さん、B子さんと呼び、排せつに関しては排便はB、排尿はSとし、ストレートな表現を控えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を行うにしても、先ず入居者様の意思や希望をお聞きしてから援助を行っている。言葉では十分に意思表示の出来ない方には、表情等をよく観察し、希望や好みの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態や希望、ペースに沿って食事時間、起床・睡眠時間、お風呂や外出等を行っていただいている。毎日楽しく穏やかに過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットや毛染めは各人の希望に合わせて、美容師免許を持つ職員が定期的に行っている。おしゃれは、その人のこだわりを大切に、思いをかなえている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの献立を提供している。メニューは決まっているが、希望があれば、献立を変更するなど柔軟に対応している。また、調理は決まった入居者様に偏る事のない様ご本人の能力を考慮したうえで、出来るだけ多くの入居者様が参加される様に努めている。	食事の準備は利用者と職員が一緒に行うようにしている。介助を必要とする利用者が2～3人おり、職員が介助する傍らで利用者がさりげなく声をかけ、食卓を和やかにしている。食事中はラジオから流れる音楽のみにして、落ち着いて食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は医療機関の管理栄養士に相談し作成している。食事量・水分量はチェック表を作り、職員間で把握している。摂取量の少ない方は、好みの物をおだししたり、回数をかけて摂っていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者様に毎食後の歯磨きを行っていたり、特に夕食後は磨き残しのない様介助している。また、週に1回は入れ歯洗浄剤での消毒を行っている。訪問歯科医からの口腔ケアのアドバイスも受け実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔、排泄量等を細かく記録し、本人のパターンやその日の体調を考慮して、トイレへの誘導や、自立への支援を絶えず行っている。	利用者一人ひとりの状況を把握しながら支援を行っている。立位のできる利用者は、日中・夜間ともにトイレでの排せつを誘導し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にヨーグルトや牛乳の摂取を勧め、料理は植物繊維の多い物を提供している。また、ホーム周辺にはのどかな田圃が広がり、屋外への散歩にも誘導している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人の習慣や当日の心身の状況を考え柔軟に対応している。希望に応じて介助の職員が交代し、風呂場での会話を楽しんでもらっている。	隔日の入浴を行い、利用者が半数ずつ交代で入浴している。現在、毎日の入浴を希望する利用者はいない。シャンプーなども利用者の好みに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動やレクリエーション、ナイトミールとしてホットミルク等の提供、不安や心配ごとのある方には近くに寄り添い話を傾聴して、心地よい眠りにつける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は文書で薬局からもらっており、薬効や副作用も理解している。服薬前後の体調も観察し、気になる点はホームの看護師や、薬剤師に相談し、引継ノートにも記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を把握し、得意な事や趣味を楽しみ、毎日潤いのある生活を送っていただけよう努めている。また、ゲーム等を通して入居者様間の融和や、会話の機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望をご家族へお伝えし、外出の機会を多くつづけている。地域の病院や保育所で開催される祭りや行事にも招待され、病院・保育所職員の介助等の協力をいただき参加をしている。	立地環境に恵まれており、散歩によく出掛けられている。また、利用者の希望に沿って楽器店やスーパーマーケットなどに同行し、外食や墓参り等は家族の協力を得て実施している。近隣の医療機関や保育園の催しにも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持ちたいと希望されたら、ご家族と話し合い所持されている。それ以外の方は事務所金庫に保管している。ご家族には出納帳を面会時に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの申出があれば、ご家族や友人に電話できるようサポートしている。また、手紙はなるべくご本人に書いて頂き、思いが伝わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やトイレは特に入念に掃除をしている。居室やホール等は、入居者様と一緒に片付けや、手作り品や花の飾り付けをしている。風通し、日当りは好条件の所に立地しており、ウッドデッキから外の空気に触れ、季節を感じてもらえる。	季節感をホーム内に取り入れるよう努めている。ホーム内の飾りつけや花・写真等の掲示も、利用者はもちろん家族にも喜んでもらえるよう工夫している。各居室の入り口には利用者の似顔絵を描くなど、雰囲気や和らげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々の相性や趣味に配慮して椅子の配置を決め、他の人と仲良く触れ合えるようにしている。その時々々の体調や感情の動きに気を配り、楽しく過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅におられた頃使っていた家具や写真等をご家族へお願いし持ってきていただいている。また入居者様の描かれた油絵や貼り絵を廊下に飾っている。	居室の清掃は基本的には職員が行うが、手伝う利用者もいる。昔作った作品や仏壇を持ち込むなど、利用者が落ち着き、安心できる環境となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内外はバリアフリーで、廊下に手すりも設置し、トイレや洗面所の場所も大きな字で掲示している。入居者様からトイレ入口に手すりの追加の希望等があれば、迅速に対応し、安全に過ごしていただける様に配慮している。		